

私立大学図書館協会国際図書館協力委員会

2002年度海外集合研修報告

国土館大学附属図書館 植田英範
2003.08.21

1

2003/9/9

私立大学図書館協会国際図書館協力委員会主催の「2002年度海外集合研修」について報告します。

なお拙稿は、平成15年8月20、21日、法政大学(東京)において開催した、私立大学図書館協会「平成15年度総会・研究大会」において筆者が報告をおこなった内容である。

研修目的

- 学術図書館の国際協力の可能性を探る
- 協力と連携の実態視察
- OCLC、OhioLink、TRLNなど機関視察
- 大学施設・図書館視察
- スタッフ交流

2

2003/9/9

この企画は2000年度企画で、実行予定が2001年11月であったものが、9.11米国同時多発テロの危険回避という理由で1年延期され、2002年に実現した第1回の研修会だった。

計画の頃は、折しも図書館資料の電子化や情報発信のための6大学電子図書館プロジェクト事例、爆発的なアクセス増を毎年更改する電子ジャーナルや記事カタログ検索、その他デジタルコンテンツ配信サービス、関連技術であるブロードバンド等ネットワーク技術の進展など、急激な変化の予兆が現実のものとなりつつあった時期でもあった。

情報源の膨張やサービスの拡大、図書館経費増、館員の負荷増大など、図書館の心配が俄に大きくなった所で、米国の資源共有・共同サービスの為のコンソーシアムの方策等モデルが、わが国の今後においても福音となるのか、など、次代の図書館ソリューション検討の機は十分に熟していたのである。

そこへ、スライドにあるような目的を掲げ、米国の巨大図書館コンソーシアムの実態を見ながら、図書館の国際協力の可能性を探って来いという朗報が届いた。浅学を顧みず、すぐさま参加を希望した次第である。

研修団メンバー

・日本大学商学部 事務局次長	秋山 正 氏
・福岡工業大学 図書館長	狩股 恵常 氏
・法政大学図書館 市ヶ谷事務課長	兼子 修一 氏
・神奈川大学 図書館事務部長	高橋 則雄 氏
・国土館大学 附属図書館第1司書課長	植田 英範

計5名

3 2003/9/9

ごらんの通り、報告者としてより適任の方がおられるが、それぞれ、経営的テーマとか団長など役割をお持ちなので、雑役が報告も兼ねるというムードとなり、最後まで事務方に徹することで役目を果たすこととなった。ご諒承頂きたい。

研修日程

2002年11月

11/4	成田空港 13:05 出発 American Air. Dallas 09:10 着 乗り換え Dallas 10:43 出発 American Air. Columbus 14:09 着 タクシーで、宿泊ホテル (Residence Inn by Columbus-Dublin) へ。
11/5	ホテルから手配車で OhioLink へ行き、通訳の小鷹さんと合流し、レクチャーを受ける。 OhioLink から OSU Library へ向かい、施設見学。 OSU から OCLC へ向かい、レクチャーを受けた後ホテルへ帰還。 その後 Mitchell Steakhouse (Restaurant) で Well come Dinner.
11/6	Columbus 15:55 出発 American Air. Raleigh Durham 17:10 着 迎えのリムジンで、宿泊先である DUKE 大学構内の Thomas Center へ。 通訳の小谷さんと会い、翌日以降の打ち合わせ。その後、クラブハウスで Well come Dinner.
11/7	リムジンで、TRL へ向かい施設見学とレクチャー。 NTSU のクラブハウスでランチ。その後 DUKE 大学 Library Service Center の施設見学。 Papa's Grill (See Food Restaurant) で Dinner. 後、Thomas Center へ帰還。
11/8	リムジンで Thomas Center から UNC-Chapel Hill へ。 レクチャー及び図書館見学の後、クラブハウスでランチ。 リムジンで、Cooperative Collection Development (共同収納書庫? 施設) 見学。 DUKE 大学構内、図書館見学の後、Thomas Center へ帰還。
11/9	リムジンで RDU Airport へ。 American Air. 8:04 出発。 Dallas 11:50 着。 American Air. で Dallas 11:50 出発。
4 11/10	成田空港 16:20 着。

2003/9/9

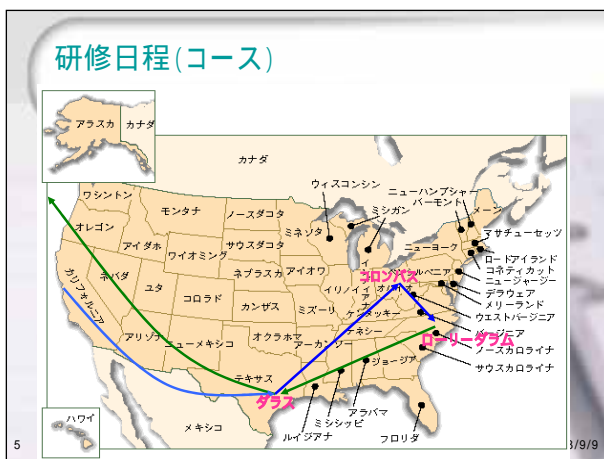
訪問先は、米国 Ohio 州 Dublin の OCLC と、Ohio 州立大学図書館、OhioLINK および、North Carolina 州立中央大、North Carolina Chapel Hill 大、Duke 大それぞれの図書館と Triangle Research Library Network などだった。

特に、OCLC では、新しいサービスである QuestionPoint の現状や将来計画等について最新のレクチャーをして頂いた。

OhioLINK や TRILN など、公・私立大学、専門学校など高等教育機関が参加する相互利用 情報資源の共同購入 外部書庫の共用

館員教育研修の共催などを主軸とした事業体であり、そこでは、協力して内外の膨大な学術情報を地域の隅々まで公平に提供することや、徹底した経費節減が追求されていて、この点我が国の協議会コンソーシアムとは根本的な相違があったように思う。

次はコースについて...



研修コースはスライドの通り、まず成田からダラスへ、そこで乗り換えて、最初の訪問地オハイオ州のコロンバスへ行きます。

此処で2泊して、次の訪問地ノースカロライナ州ダーラムへ行き、ここで3泊して、帰りもダラス乗り換え経由で、成田へというコース。

日程は、私にとって非常に忙しいコースでした。しかも連日朝早くから夜もウェルカムディナーが連日というもので、free time が全くなしというハードさだった。

今年の方は、これを反省して余り動かない内容と側聞するが、羨ましい。

現地の移動は、オハイオではワゴン車と、現地通訳の方のマイカー、かわってノースカロライナでは、何処へいくのでもリムジンオンリーと、面白い組み合わせだった。

OhioLINK

- OhioLINKの概況
- メンバーライブラリとサービス
- ライブラリーカタログ
- リサーチデータベース
- 電子ジャーナルセンター (EJC)
- デジタルメディアセンター (DMC)
- E-Books
- アジアライブラリー

6 2003/9/9

まずは、OhioLINK

Ohioリンクは、Ohio 州内 17 の公共大学、23 の2年制カレッジやテクニカル大学、39 の私立大学とOhio 州内図書館等 82 団体、延べ 500,000 人以上の学生・教職員等にサービスする巨大な図書館コンソーシアムである。

中央のオフィスとサーバーなどの施設は、Ohio 州立大学構内に持ち、120キャンパスのライブラリーシステムとネットワークを組んでいる。センターのカタログは、法律分野を含めた図書館資料、医療、特別コレクション等その80団体から8百万件以上のレコードが寄せられ、年間3千百万件以上のアクセスがあるという。また電子ジャーナルセンター

の多重出版者アクセスおよびアーカイブは、現在 4,570 誌、3 百 20 万件の全文記事という、いずれも桁外れの巨大コンソーシアムだ。

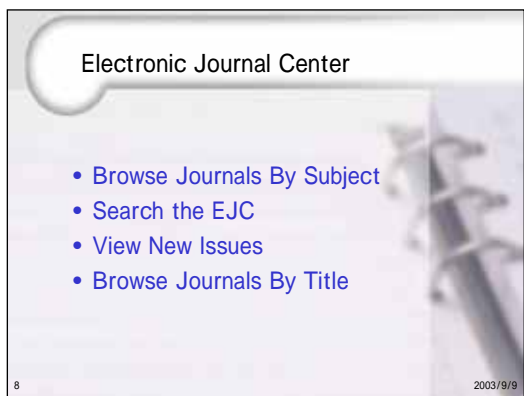
OhioLINK Library Catalog Search Options

- By Author
- By Subject
- By Keyword
- By Title
- All Other Search Options

7 2003/9/9

カタログ検索の場合の参加館の検索オプションは、著者、主題、キーワード、タイトル、その他全部が検索オプションになる。

わが国のケースと変わらないという例。



電子ジャーナルセンターの目的

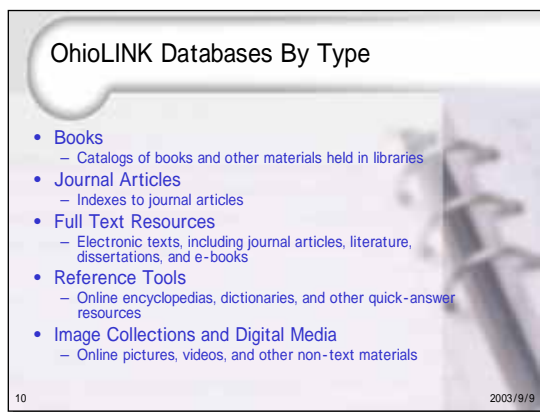
- ・ 主題やタイトルによって雑誌記事が探せて読めるようにすること
- ・ 検索が出来ること。カタログ検索 一部はフルテキストサーチも可
- ・ 新刊が早くに閲覧できること
- ・ タイトルから記事全文を表示できること



DMC は、参加館等のコレクションを集めて世界的規模で配信することを促進しているようだ。

コレクションの中身は、ビデオ、外国語 DB、物理のデモ百科、アート&アーキテクチャー写真集、歴史文書館写真集、ランドサットの衛星写真、マップ、社会科学 DB などである。

コレクションの内容は、ohioLINK の運用資金にも影響する、カタログだけではないデータなので、熱心にデータをコレクションしている。



扱う DB の種類は、

- ・ 本
図書等のカタログ。これは、各参加図書館にも適用した
- ・ ジャーナル項目
ジャーナル記事のインデックス
- ・ フルテキスト資源
ジャーナル記事、文学、研究報告および e-book を含む電子テキスト
- ・ レファレンス・ツール
オンライン百科事典、辞書および他の迅速な回答資源
- ・ イメージ収集およびデジタル・メディア

イラストや写真、ビデオおよび他の非テキスト物

などだが、コレクションの量は、我が国の図書館で検索・閲覧できるものと比べものにならないくらい多い。それらが、ハイスクールや専門学校以上の参加館全部に提供できているというから、サービスレベル格差が大きい。

私が見た、スパイ映画のあるシーンで「そのネタ、オハイオじゃないでしょうね？」という台詞があったが、そのくらい簡単にとてつもない情報がオハイオから取り出せるということが常識となっている訳である。

OSU (Ohio State University)

- OSUの概況
- ゲストハウス
- ライブラリー
 - オンラインチャット
 - 大学アーカイブ

11

2003/9/9

OSU は、コンピュータやバイオなどで発展しつつある Ohio 州中央にある州都 Columbus にある。大学は、キャンパス規模・広さ、学生数などで全米有数の総合大学であり、学生・院生総数は 5 万人強、教職員数は 3 万人強という。

専用のゴルフコース(ジャックニコラスはこの大学の卒業生で、彼の博物館もある)や、視界に入りきらないほど広い実習農場だけではなく、専用の空港までも持っている。

スポーツでは他に Football が有名で、全米 championship を何度も獲得しており、シーズンは、10 万人の客席を誇るキャンパス内の Ohio Stadium を満席にするという。

私たちは、構内のゲストハウス (Faculty Club) で現地の

方々と昼食を摂った後、駆け足で OSU Main Library を見せて頂いた。もちろん OhioLINK の構成メンバーだ。他の図書館と同じように情報検索コーナーが分散して設けてあり、かなり多くの端末が並んでいた。

ここに東アジア図書館があり、モーリーン・ドノヴァンという司書の方が、日本資料コーナーの説明がてらご自慢らしい「手塚治虫」の A1 版大漫画ポスターを嬉しげに見せてくれた。彼女は慶応大学への留学経験があるらしく、部分的に日本語で語りかけてくれた。

OSU Campus Map



メインキャンパスの中を私たちはどのくらい歩いたかを参考までに....

スライドは、OSU のサイトから引用したキャンパスマップだが、移動は 部のみ。たった、これだけで、OSU は語れない。

OCLC (Online Computer Library Center)

- OCLCの概況
- OCLCメンバー会議
- 館員リソース
- ツールボックス
- OCLC図書館(参加機関)
- WorldCat
 - 協力の法則
- QuestionPoint

13

2003/9/9

OCLC は、世界各国の大学や研究機関から会員構成され、その先進性とスケール、新技術やサービス方式等において“世界図書館”を自負するに相応しいメンバー制のサービス機関だ。

Ohio 州 Dublin 郊外に本部を構え、米国議会図書館などの政府系図書館や、Harvard、Stanford、Oxford、Cambridge など主要各国の大学図書館、その他公的機関を含む世界 83 ヶ国、42,000 館以上の図書館が OCLC に参加している。日本では 1986 年から紀伊國屋書店が代理店となって国内の多くの大学図書館等へサービスを拡張している。

OCLC は、洋書目録作成の省力化に寄与する膨大な目録を持っている。この世界最大書誌データベース「WorldCat」を検索し、コピーカタログングが行える。ヒット率が 95% 以上という「WorldCat」は、歴史的な手稿本から最新先端技術レポート、さらにマルチメディアなど様々な資料情報を幅広く収録している。

このほか、12,000 タイトル以上の雑誌の最新記事情報をいち早く検索できる「OCLC Article First」(First Search)、議会等会議録が調べられる「OCLC Proceedings First」などの DB に加え、「MEDLINE」、「INSPEC」といった、およそ 70 種類の DB が利用できる。また、ILL Service は、参加図書館からのリクエストの作成・発信・追跡を支援するサービスで、WorldCat が保有する 4,800 万件以上の書誌レコードにあたって所蔵機関を確認し、資料の相互貸借を行うことができる。

また、我々への説明で時間を割いたのは、2002 年 7 月から新しく始まった「QuestionPoint」だ。これは、

OCLC メンバー中の専門委員約 30,000 人？が、参加図書館の質問に応えてくれ、この履歴を Knowledge base に登録して検索に供するという、図書館の 24 時間態勢オンラインヘルプデスクサービスである。

サービス開始から4ヶ月間で 3,716 件の登録があり、我々の訪問前月の 10 月は、1ヶ月で 8,449 件(実績値)の質問が発生し、その後も増加が著しいという。(後日 Mail にて回答を得る)



つぎの訪問地は、ノースカロライナ州ローリー・ダラム地区である。

5. TRLN (Triangle Research Library Network)

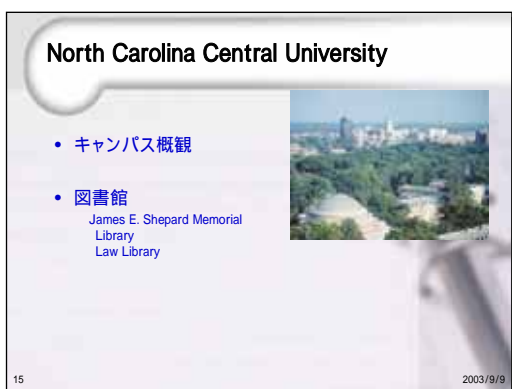
米南東部 North Carolina の、州都の Raleigh、そして Chapel-Hill と Durham 地区は、アメリカ連邦政府による企業・医療の国際的研究・開発センターである Research Triangle Park があり、ここにある TRLN には、Duke 大学と NCCU、UNC、NCU-Chapel Hill が参加している。

ここでの協定内容は歴史的に、コレクション構築の分担と資源共有から構成されている。

TRLN の名前が採用されたのは1980年のことで、その後サービスが拡大され、コレクションの共同構築、資源の共有や 1,500 万冊収蔵可能な共同書庫運用、技術革新といった伝統的なプログラムを、技術進歩にあわせ、協力・連携というあたらしい概念によって統合され、現在に至っている。

特に目新しいニュースは、専門技術者を雇用して各大学の教員を支援し、デジタルコンテンツ(特に教材開発・FD)の共同開発体制を準備していることだった。実際的なサイバーキャンパスコンソーシアムのモデルが出現した形だ。著作物の法的措置についても、著作権協会？へ各館のアクセス基準による算定額で各大学が個別に支払うという。

また、参加館の人事についても協定されているらしく、館間異動や館内の部署替えなどを行っているという。(コンソーシアムからの派遣ではない)



6. NCCU (North Carolina Central University)

North Carolina 中央大学は、Durham のダウンタウン近くにキャンパスがあり、学部やビジネス・スクールの学生は無論、卒業してからも学べるという比較的小規模の大学で、最初のアフリカ系アメリカ人のための公共一般教養教育機関を持っている。

大学は、学術的、創造的に携わるべき教授と学生とが世界共同体に役立つサービス活動を積極的・継続的に推進しているという。古式ゆかしいキャンパスや図書館を、駆け足で廻っただけだったのが、少し残念だった。

North Carolina State University

- キャンパス概観
- 図書館
 - NCSU Libraries



16 2003/9/9

本来は訪問予定だったが、スケジュールの関係で中止とした。キャンパスは車で走り抜けたただけだが、何処からがどの大学のキャンパスなのか分からなくなっていた。

ここでの対談予定者は、次の訪問先で合流していた。

The University of North Carolina at Chapel Hill

- キャンパス概観
- 図書館
 - David Library
 - Academic Affairs Library
 - Health Sciences Library
 - Law Library
 - (& total 7 Lib)



17 2003/9/9

7. UNC (University of North Carolina-Chapel Hill)

UNC は、1795 年に創立された米国で最初の州立大学で、Research Triangle Park という学術研究地区の中心にキャンパスがある。

この地域は、バイオ、ハイテク関連企業との交流や提携も共同プログラム開発等を通じて非常に盛んに行われており、これらの技術も間接的にこの大学に貢献している。

また、バスケットボールで有名な、マイケル・ジョーダンの母校としても知られていて、名門の Business School は 1919 年に創立された伝統校で、全米一と自慢する。これを証明するか

のような、豪壮な図書館に案内してくれた。

David Library が UNC の中央図書館であり、金・土を除いて 24-7 開館している。図書約 250 万冊、約 300 万件の連邦資料、170 万件のマイクロフィルムなどを収蔵する。特に検索端末数は約 400 台を備え、マルチメディア編集コーナーやマップなどのデジタル資料出力コーナー、全 40 席端末付きコンピュータなどが館内にあるということが興味深い。

Duke University

- キャンパス概観
- 図書館
 - Perkins Library System
 - The Ford Library at the Fuqua School of Business
 - Law Library
 - Medical Center Library



18 2003/9/9

8. DUKE UNIVERSITY

このように、North Carolina の、Research Triangle Park 周辺は有名大学を擁する広大な大学街である。宿泊先 Thomas Center (Duke 大構内) からリムジンでこの周辺各大学をツアーしたが、各校 15 分くらいしか離れていないので、どこがどの研究機関・大学なのか見境がつかない。

Duke University を擁する Durham は、博士学位取得者が多く住む人口約 20 万人の町で、学生寮も(殆ど全寮制? 学費はこれをも含め年間 300 万円超)キャンパス内にあり、ほとんどの文化・芸術・スポーツなどのイベントはほとんどが学内で催されているという。

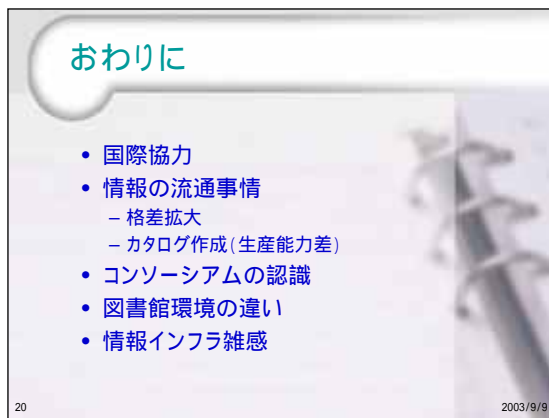
Duke Univ は 1839 年に創立された統一メソジスト教会系の私立大学なので、タバコ産業で財を成した Washington Duke の寄付により Trinity College から総合大学となり、医学、法学、ビジネス・スクール、科学、工学、環境、看護、芸術などの 9 つの School から構成されている。学生数は 12,000 名で、その半数が大学院生で、Harvard よりも研究環境や教育内容が優れているという見方もあるようだ。図書館の専任ライブラリアンは 100 人以上 (Triangle 全体で 400 人強) いるという実態が、これを裏付けていた。



このトーマスセンターが、3泊の我々の宿泊施設だった。ここは、ビジネス・スクールの研修施設らしく、セミナールームやパーティーなどが出来るフリースペースがいくつか配備されている。

ゲストルーム(宿泊個室)やサービスも5つ星ホテルに近い。

フルーツやチョコなどの菓子、ジュースなどが、いつでもフリー・コーナーに置いてあり、常に補充されていたことが、珍しかった。



いくつか雑感を述べたい。

・国際協力

まずは、わが国大学図書館の情報発信をより促進する必要がある。一方に依存するだけでは、高い情報を買わされることに繋がるからだ。資源共有の道が険しいことを思い知らされた。

・情報の流通事情

書誌情報から記事全文、ドキュメント、学習教材などが、あらゆるメディアで膨大に蓄積されている。情報提供機関が広範で多い。だから、情報蓄積件数が指数的に増加する傾向にある。

図書の書誌カタログは100～160[件/人日]という。

当館では10[件/人日]くらいだから10倍以上の生産能力差がある。情報流通量では、年々格差増大の一途という恐ろしい現実を認めなければならない。

・コンソーシアムの認識

営利・非営利事業に拘わらず、システムから人事・予算・組織が法人格を有する完全な事業体として運用されている。わが国のような協議会という「会議体」ではない。

・図書館環境の違い

同一キャンパスに、1万平米前後の図書館が10数館もある。蔵書量、館員数、施設・サービスの内容いずれにおいても、わが国のそれとは比べものにならない。

・情報インフラ雑感

このような、大学間の環境格差があるなか、学生は卒業と同時に国際競争に駆られる。だが、その知識基盤である図書の書誌情報や雑誌記事カタログなどのデータベースのレベルでは、日米格差は拡大する一方である。

いま、わが国の大学図書館に、教育・研究に不可欠な多様な学術情報の潤沢な流通と広いサービスを実現する、新しい発想転換の必要性を実感している。国際協力・館間協力などのすべてが、“情報発信”というキーワードに収束するからである。

最後に、まず、この貴重な体験の機会を与えてくれた、協会と関係方々に深く御礼を申し上げたい。特に国際協力委員会事務局の柳下さん・保坂さんには、完璧なツアースケジュールをサポートして頂いた。そして、現地通訳の小鷹さん・小平さんには絶妙なガイドをこなして戴いた。心から感謝申し上げる。(完)